

グループ名 ・代表者名	市民科学者放射線防護ネットワーク 瀬川嘉之	助成金額	30 万円
連絡先など	segawa.yosi@gmail.com		
助成のテーマ	福島第一原発事故による放射能汚染と「低線量」被ばくによる健康影響を検証するプロジェクト —国内外の市民・科学者を結集し、日本政府による放射線防護対策を検証する—		

【調査研究の概要】

- 市民が国内外の科学者とともに放射線による健康影響と放射能汚染状況について学び、政府による健康調査や防護対策を検証するため、国際会議を開催。
- CRMS市民放射能測定所および共催団体等による福島県内外における活動、「子ども・被災者支援法」に関する政府・自治体への要請活動、国連人権理事会特別報告者やベラルーシ・ベルラド研究所をはじめとする海外視察団受け入れにおいて、背景知識・情報および参考資料として使われている。

【調査研究の経過】

2012年 6月23日、24日：
福島県の猪苗代（ヴィラ・イナワシロ コンベンションホール）にて、『市民科学者国際会議』を開催。「健康影響の科学的・医学的見解」「基礎データと計測」「防護とケア」3つのセッションで11人が講演、400人が参加、全員で「円卓会議」。ネット中継10,000人が視聴。
12月13日：
『市民科学者国際会議 会議録 セッション3 抜粋掲載』を発行



【今後の展望など】

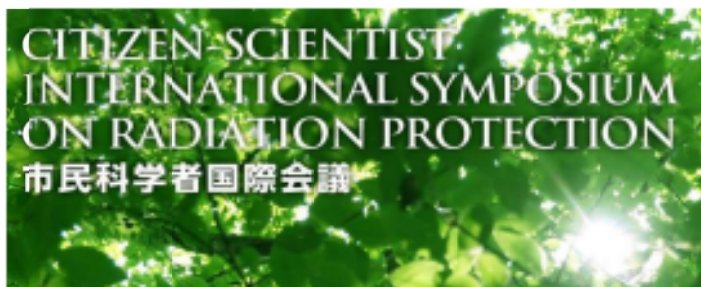
- 2013年 10月13日、14日 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京・代々木）にて、第3回『市民科学者国際会議』を開催予定

会計報告書の概要（金額単位：千円）			充当した資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
旅費		827			827
資料費		56			56
機材・備品費	PAレンタル2社（振込手数料込）	111	111		
会議費	シンポジウム会議室借料	466			466
印刷費	会議配布資料（インク・紙代 43,912 円、長谷川氏資料 5,110 円、要旨集 95,800 円）	145	129		16
協力者謝礼など	翻訳等資料作成謝礼（10,000 円）×6 回	715	60		655
その他		259			259
合 計		2,579	300		2,279

参考文献（ウェブサイトや書籍、成果物など）

- CSR P市民科学者国際会議 <http://csrp.blog.fc2.com/> <http://www.csrp.jp/>
- 2011年10月12日 市民・科学者国際会議 <http://www.crms-jpn.org/art/140.html>
- セバスチャン・プフルークバイル『セバスチャンおじさんから子どもたちへ 放射線からいのちを守る』旬報社、2013

福島第一原発事故による放射能汚染と
「低線量」被ばくによる健康影響を
検証するプロジェクト
—国内外の市民・科学者を結集し、
日本政府による放射線防護対策を検証する—



市民科学者放射線防護ネットワーク・瀬川嘉之

<http://www.csrp.jp/>

私たちは、2011年3月以降、福島第一原発事故による被害と被曝を最小化することにそれぞれの立場から取り組み、このたび、2012年6月に「市民科学者国際会議」を開催し、福島原発事故以後の世界において確立されるべきよりよい放射線防護のあり方を、市民の視点に立ち、国際的なネットワークを通して、科学的に問題提起し議論していくことを目指します。

※USTREAM中継を予定しております

〈福島1 日本語〉<http://www.ustream.tv/channel/iwj-fukushima1>

〈福島2 英語〉<http://www.ustream.tv/channel/iwj-fukushima2>

2012年6月23・24日

於 ヴィラ・イナワシロ：コンベンションホール

VILLA INAWASHIRO CONVENTION HALL



主催・共催・協力・協賛団体

主催	市民科学者国際会議実行委員会 (CSRP)
共催	ドイツ放射線防護協会 / 福島県有機農業ネットワーク NPOはっぴーあいらんど・ネットワーク / CIRMS市民放射線測定所
協力	特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター JANIC 特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク JIM-NET フランス国立在外研究ユニット LIMIFRE19 CRIIRAD (ケリラッド・放射線調査情報提供独立委員会) 子どもたちを放射能から守る全国小児科医ネットワーク 子どもたちを放射能から守る全国ネットワーク 全国市民放射線測定所ネットワーク
協賛	測定器47台プロジェクト / こどものとなり / 合同出版株式会社 / 高知県 カトリック横浜司教区 / 特定非営利活動法人アークス仏教国際協力ネットワーク 臨濟宗大本山建長寺 / チャーチ・ワールド・サービス アジア太平洋 他

THE SPEAKERS

セバスチャン・プフルークバイル Sebastian Pfluegel 物理学 ドイツ放射線防護協会 ECRP科学委員会
キースバグネルスロック Keith Baverstock 環境科学、放射線生物学 東アングリア大学 IARC ARCHプロジェクト
インゲシュミット・ファイアハーケ Inga Schmitz-Feuerhake 物理学 ECRP科学委員会 オットー・フォン・グラーフ研究所
フロランタン・ヴァイトール Florent de Vathaire 理学 Inserm UMR-S 805, Université Paris-Sud 11, Institut Gustave Roussy (IGR), Villejuif
ブルーノ・チャランヤン Bruno Charanyan 放射線工学 CIRPAD
早野 隆五 Ryugo Hayano 物理学 東京大学
長谷川 浩 Hiroshi Hasegawa 数学 奇想集ネットワーク
滝川 雅之 Masayuki Takigawa 大気化学 東京大学環境学類 J-UNISTEC

子どもたちを放射能から守る小児科医ネットワーク / チェルノブイリ遺構基金 / 市民科学者国際会議 / はっ
www.csrp.jp

はじめに

実行委員長 岩田 渉

目的の一つは、ここ1年有余、私たちが過ごしてきた二項対立的な状況から歩を前に進めるため、科学者の方たちをお招きし、公の場で、合意点や不合意点を明確にするための議論の場とすることでした。文科省の放射線審議会、日本のICRP委員、そして福島県立医科大学から研究者の出席を打診いたしましたが、スケジュールを理由に、また批判されることを恐れてか、この会議の場への出席は叶いませんでした。彼らの言説と見解が色濃く国や行政の政策に反映されるものであるからこそ、こうした市民を交えた場で堂々と自説を発表し、批判に耐えるものであることを証明する責任があります。

一日目オープニング・キーノートスピーチ セバスチャン・プフルークバイル



低線量の内部被曝 過小評価しないで

2012年06月24日

フォイアハーケは主として外部被ばくデータ(原爆や医療被ばく)を報告

福島第一原発事故後の長期低線量被曝の影響を懸念する専門家やNGO(非政府組織)による「市民科学者国際会議」が23日、猪苗代町のヴィラ・イナワシロ・コンベンションホールで始まった。

国際放射線防護委員会(ICRP)は低線量内部被曝を過小評価していると批判する欧州放射線リスク委員会(ECRR)のインゲ・シュミッツ・フォイアハーケ委員長らは「100ミリシーベルトよりはるかに低い線量でのがんの発症」データを報告し、「予防原則に立った被曝低減化策」の必要性を訴えた。

24日は小児科医や物理学者が将来に向けての健康影響調査、放射線防護策、アフターケアについて提言し、話し合う。参加無料。

一日目セッション1:

キース・ベイヴァーストック(がん、循環器系、がん以外の疾患) 新川昭夫(北海道医療大学学長・日本人類遺伝学会理事長: 遺伝的影響) による質疑応答



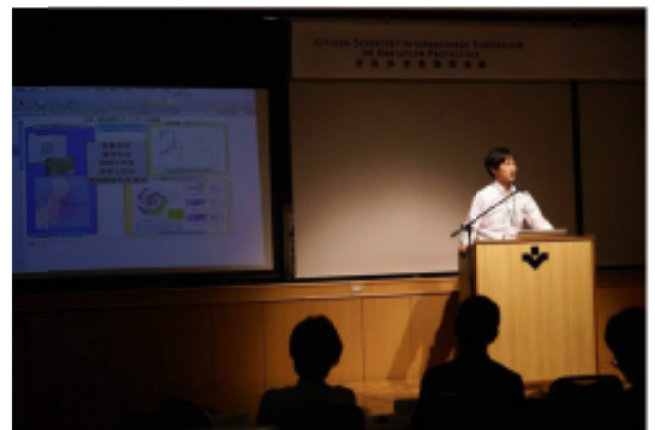
二日目セッション2: 長谷川浩(福島県有機農業ネットワーク) 講演「放射能汚染後の福島県の農業と生産物の現状と課題」

Total Cs contaminations of edible wild plants and mushrooms by CRMS (May/31/2012). 市民放射能測定所によるタケノコ、山菜、キノコの測定結果(2012年5月31日まで)

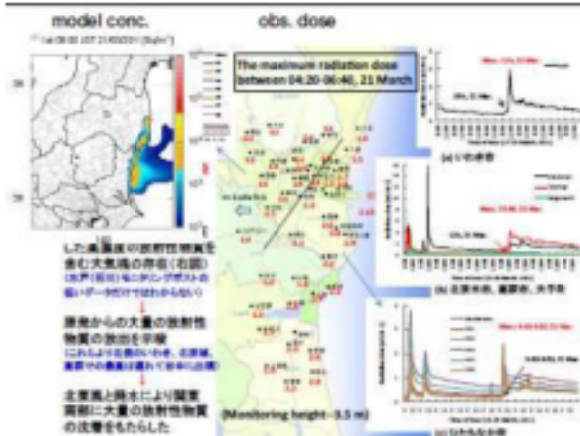
Product	No. of samples	Min. (Bq/kg)	Median (Bq/kg)	Mean (Bq/kg)	Max. (Bq/kg)
Bamboo (タケノコ)	16	14	69	116	711
Shiitake mushroom (シイタケ)	10	193	701	1063	3130
Other wild mushrooms (他の野生キノコ)	15	10	56	662	3000
Edible wild plants (山菜)	141	0	30	143	6170

Edible wild plants and mushrooms are highly variable, and definitely should be monitored. タケノコ、山菜、キノコは、ぜひ測ってから食べる食べないを決めるべき

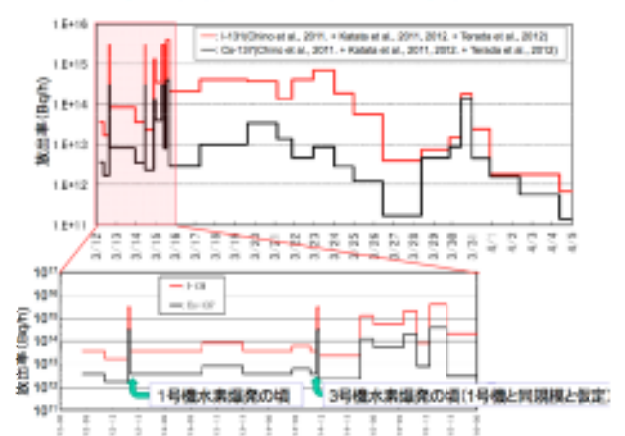
二日目セッション2: 滝川雅之講演「数値モデルを用いた大気経由の放射性物質の輸送・沈着分布の推定」



初期放射能拡散・沈着推定



初期放射能放出推定



フランス領ポリネシアでの核実験による
甲状腺被曝量と甲状腺がんのリスク
：被曝量によってリスクは増加

(de Vathaire et coll, British Journal of Cancer, 2010)

被曝量 < 15 years	全人口 (229 cases and 373 controls)			最少の悪性腫瘍と対応するコントロールを除外したもの (141 cases / 231 controls)		
	Cases / Controls	OR** (95%CI)	p	Cases / Controls	OR** (95%CI)	p
<1 mGy	156 / 250	1*		93 / 149	1*	
1 - 9.9 mGy	61 / 111	1.0 (0.5 - 1.9)	0.04	39 / 74	1.1 (0.5 - 2.6)	0.02
10 - 19.9 mGy	7 / 9	3.3 (0.8 - 14)		5 / 6	6.2 (0.9 - 41)	
20 - 29 mGy	5 / 3	5.7 (0.98 - 45)		4 / 2	11.6 (1.0 - 132)	
Work at sites						
No	219 / 361	1*		132 / 222	1*	
Yes	10 / 12	1.0 (0.3 - 3.5)	0.9	9 / 9	1.5 (0.4 - 5.6)	0.913

ガラスバッジによる 南相馬市等、地域別
年間積算線量 (mSv)

2011年5月15日～2012年4月30日

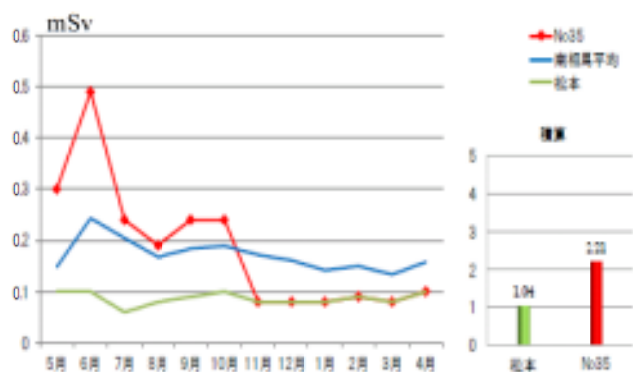


日本チェルノブイリ連帯基金

※過半数が0.4以下、43名の1年間の積算線量

福島ガラスバッジプロジェクト活動報告書2012.06.10より

南相馬市内0歳児窓際のベッド脇
隣町500m先のコンクリートアパートに引っ越し



日本チェルノブイリ連帯基金

福島ガラスバッジプロジェクト活動報告書2012.06.10より

15



16

成果

- ・ CRMS 市民放射能測定所および共催団体等による福島県内外における活動
- ・ 「子ども・被災者支援法」に関する政府・自治体への要請活動
- ・ 国連人権理事会特別報告者やベラルーシ・ベルラド研究所はじめとする海外視察団受け入れ
において、背景知識・情報および参考資料として使われている。

17

今後の展望など

2013年 10月13日(日)、14日(月・休)
国立オリンピック記念青少年総合センター
(東京・代々木)にて、

第3回『市民科学者国際会議』を開催予定

海外参加者

セバスチャン・プフルークバイル
キース・ベイヴァーストック
ヴァルフガング・ホフマン 他

18